

自由が丘のまちづくりについて 2020.7.27 ー以下は当日配布資料の抜粋ー

(1) 自由が丘まちづくりにおけるデータ化活動へのご期待の振り返り

- ・ AIを用いることで、これまで「夢物語」であったスマートシティ化を現実に落とし込むことができる可能性を感じた。
- ・ 一方、活動の目的としては、振興組合加盟店舗は1,300の個々のテナントやエリアに支援を偏ることなく、街全体を俯瞰することが必要。街から使う側の発想で課題を出し、プロダクトアウトではなく「問題解決型」の取組みとすべき。
- ・ 個人情報保護に配慮して映像データを端末側にてデータ化し、個人情報を含む動画を消去していく手法は有効。或いは、複数の端末データを地域BWAなどの通信を用いて一度集約してデータ化を中継地点にて行い、その場にて元データを消去する方法も検討可能。
- ・ 大学のシーズを技術に応用するという目的であれば、文科省の科研費を活用できる可能性がある。収益目的よりは、PRの意味で価値があるのではないか。

(2) 取組み案と進め方(案)

課題1 今後、街の開発が進んでいく中で、引き続き人が集う街であり続ける必要がある

- ・ 取組み内容案 街の主要各エリアの通行者人数・性別・年齢、店舗・スペースでの滞留状況等を継続的にデータ取得：街づくりのためのベースデータとして活用していく

課題2 歩きやすく、安全な市街地の実現に向けて、踏切での人の渡り残り・進入や、駅前等での歩行者・車の危険な近接を把握し、改善につなげていく必要がある

- ・ 取組み内容案 街の安全性を高めるために、1) 踏切の渡り残り、閉まってから後の横断等を検知：踏切の 人の侵入状況や危険度を定量化(曜日・時間帯別など。また、侵入した際の発報も実施可) 2) 駅前等での歩行者・車両の近接回数計測を実施

課題3 人が主体の街ではあるが、荷捌き作業の車両や一時停車・駐車車両が多く来訪しており、当該車両番号の特定や、必要な駐車場数の把握ができるとうい

- ・ 取組み内容案 路面駐車・トラックの検知(例)カーナンバー検知によりどのような場所から車両が来ているかの特定

(3) ニューラルポケットも保有する多彩なAI画像解析技術を活用し、取組みを実現していく

- ・ 属性分析：年齢/性別、視線検知、顔認証
- ・ ファッション・姿勢分析：ファッション/所持品分析、体の動き詳細分析、骨格検知による詳細分析
- ・ 人流分析：グループ分析、空間・動線把握、混雑度/滞留時間分析
- ・ 交通分析：車両検知、交通量解析、沿道分析

以上の分析を利用して、例えば以下のことが可能になる。

- ・AI機能搭載の電子看板等を活用し、街における来街者の人数・属性に関するデータを収集
 - 映像をその場で処理し、個人情報・プライバシーに配慮しながら、データを集約
 - ◎電子看板を来街者が見ているかどうか、どういう属性かの分析も可能
- ・踏切など、特定エリアの侵入検知や、通行者の動作分析
 - 特定エリア(踏切など)への人・車の侵入をリアルタイムで検知、その動作分析も可能
- ・駐車場等で実績のある満空把握技術を活用し、街における人・車の往来状況を分析。近接カウンとも実施可能
- ・AI搭載ドラレコアプリの技術を応用し、車両・通行者を計測
- ・高精度のナンバープレート認識を提供可能：99%+の精度を達成
 - Neural Pocketの画像解析AI技術はシステム負荷を軽減させた高精度の検知を実現。ブレた画像でも検出可能となり、カメラ性能に依存しない。

◎街づくりに活用できるニューラルポケットのAI技術

個人特定できない。データ複製しない。データ保存しない。—— 画像データは残らない。人が映像を確認しないので、プライバシーを守りつつ、街づくりにカメラ画像処理のAI技術を利用しやすくなる。



参考: ニューラルポケットは現在、国内外でまちづくりに参画



Copyright © Neural Pocket Inc. All Rights Reserved.